

## 第3回北九州市観光振興プラン検討会 議事録

- 1 開催日時 令和4年11月22日（火）10時から12時
- 2 開催場所 西日本総合展示場（新館）3階 302会議室  
（北九州市小倉北区浅野三丁目8番1号）
- 3 出席者（構成員）※敬称略、50音順  
植田 詩生 後小路 雅弘 加倉井 良多  
福島 規子 マッコームズ 夏野 南 博（座長）
- 4 議題等 (1) 次期観光振興プラン（素案）の説明  
(2) 意見交換

### 5 議事概要

#### (1) 次期観光振興プラン（素案）の説明

事務局説明

#### (2) 質疑応答・意見交換

- 基本目標にある「ゲストとして迎え、友人として送り出そう」は誰が聞いても具体的にイメージしやすい。強く推して行って良い。
- 全体的にこれまでの意見がよく反映されている。目指すべき方向性はエッジが効いていてよい。特に観光トレンドもよく散りばめられている。
- 基本目標①～③についてインバウンドや広域圏域が対象から外れたようにみえるので、書き方を工夫すべき。
- KPIは3年でコロナ前に戻すことは現状からすると妥当。KPIの各項目は、プランの個別施策の積み上げ結果よりも、外部環境の要因が大きかったりするので、プランの施策と関連付けられないというのも致し方ないと思っている。
- 市民満足度の目標値75%は意欲的で良いが、現実問題ハードルが高いのではないか。これを達成するという姿勢を示すのであれば問題ないが。それを達成するためには戦略IIの情報発信やマイクロツーリズムの推進などが市民満足度に直結してくるところだと思うので、具体的な取り組みを進めて行ってほしい。
- 本市に旅行に来た人からは地元の人とのふれあいが楽しいという話をよく聞く。地元の人々の日常が観光客の非日常になる。そのため、地元の人々の日常をより充実させることと、（小倉だけでなく）市内全ての地元商店街の活性化が重要になる。
- 市内には鉄の彫刻が40点ほどある。これらを見て回りたいが、まとまった情報がない。これをマップなどに落とし込めば周遊する人も出るだろう。個別のPRは個人のSNSに頼るにしても、行政として既存のものを活かすという全体的なフォローが必要。
- 泊食分離が進んでいることを、このまちの強みと捉えて推進していくことが、他の観光地との差別化につながる。その点からも戦略Iにある“まち歩き”についての施策をより具体的にしていく必要がある。

- 城や山は登らないといけない、ミュージアムは歩かなければいけない、そこまでの公共交通機関どうなっているか、身体の不自由な人も楽しめるのか、など気になる人はいる。エンドユーザーにどれだけその情報を伝えるかが、実際に行ってみたいと思う心理的ハードルを下げることに繋がる。
- 周辺都市圏域の人にも北九州フィルムコミッションのエキストラ登録を推進することや、世界体操などスポーツ観戦に来てもらうなど、来訪への動機付けをすることからマイクロツーリズムの促進をしていったらいいと思う。
- 観光客のごみ問題やオーバーツーリズムなど、観光客が来た後に発生する問題をどうするか、考える必要がある。北九州は環境に負荷をかけない取組が進んでいるため、観光客のごみの処理方法などを意識したエコツーリズムとは異なるエシカル観光を意識していくべき。
- Z世代の消費形態が変わってきており、動画を撮って投稿することに慣れているので、フォトコンテストではなく動画を使ったコンテストやPR方法などZ世代を意識した施策を立てるように。
- 美術館を歩き回ることが認知症に効き、高齢者が元気になるという研究も進んでいる。観光も高齢者にとって“良いもの”という視点での高齢者対策があってもよい。
- アジアの人はキャッシュレス対応をしていないと極めてストレスを感じるが多いため、観光施設におけるキャッシュレス対応は非常に大切な取り組み。
- 戦略Ⅲ－2のキャッシュレス対応については、インバウンドへの対応にも有効なので、戦略Ⅱ－4にも入れてよいのではないかな。
- 戦略Ⅳ－1北九州を盛り上げたいと思っている民間の方などはたくさんいる。そういった人を取り込めるような仕組み、各々が自走してくような仕組みを作っていければ持続可能な観光地づくりに繋がるのではないかな。
- ファンづくり、情報発信や推進体制などは行政だけでできることは限られているので、観光コンベンション協会、DMO、商工会議所など関連機関に動いていただく必要性が非常に高い。それらの事業者との情報共有や方向性の認識合わせ、取組の調整などをする役割を市か観光コンベンション協会が行って、十分に取組んでいただきたい。